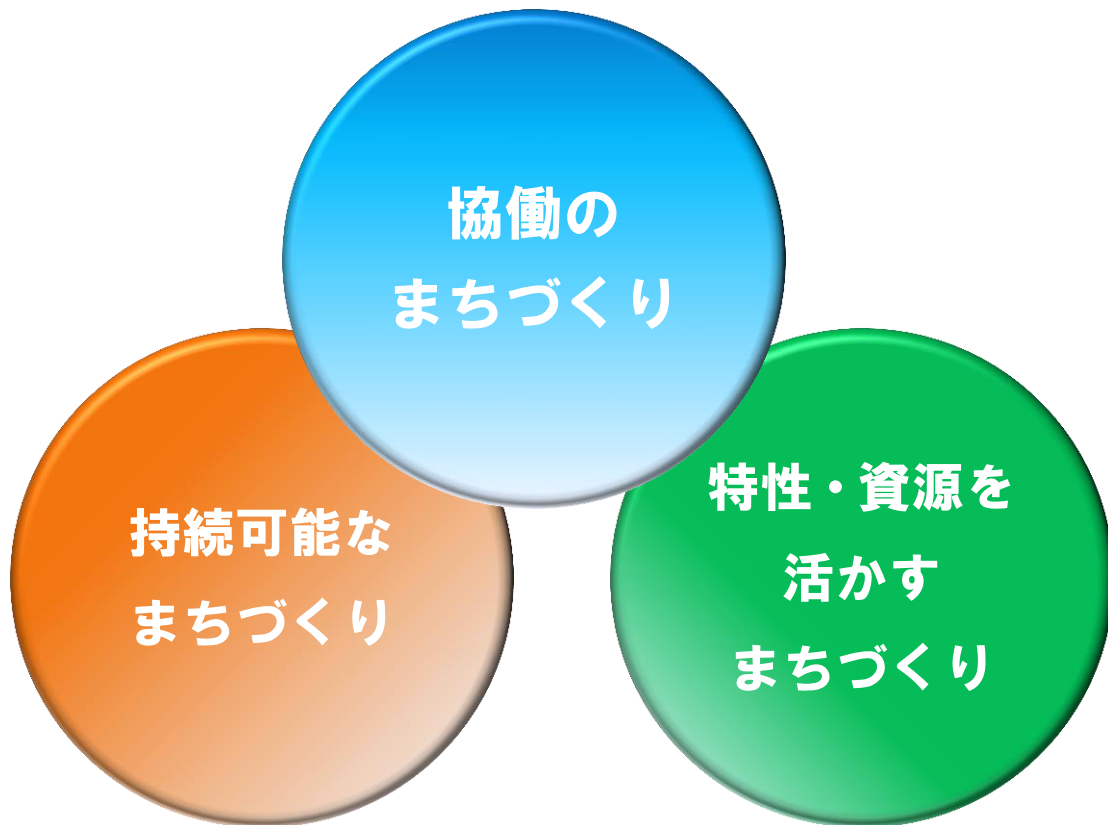


第2部

基本構想

2 まちづくりの基本理念



1 協働のまちづくり

第4次総合振興計画で掲げた「協働のまちづくり」の理念は第5次総合計画でも引き継ぎ、さらなる深化を図ります。財政制約を背景に公助の拡大が難しくなるなか、住民ニーズの多様化・高度化に即応する自助・共助の拡大を図ります。

2 持続可能なまちづくり

地球規模の環境資源制約、国内の財政制約や人口減少社会に対応して、人口や財政の規模をはじめとして身の丈にあった投資による成長や定常的な質的发展をめざします。社会経済財政面を含めて持続可能なまちづくりによって、三芳町のもつ良好な環境を確実に将来世代に継承することを重視していきます。

3 特性・資源を活かすまちづくり

「東京に一番近い町」「昼夜間人口比率が県内トップ」「平地林が支える三富新田の循環型農業」「自然災害が少ない町」など、三芳町の特性や資源を活かし、小さいながらもきらりと輝く独創的で個性的なまちづくりをめざします。

3 将来像

未来につなぐ ひと まち みどり 誇れる町

町の最高の資産は、そこに住み、働き、学ぶすべてのひと。人々が、ともに支えあい、いきがいと誇りを持ち、輝くことのできるみどり豊かな三芳町。

まちを想い愛するひとが地域に根づき、活力にあふれ、魅力あるまちを創り、みんなで未来を拓いていく。誇れる私たちのまちを未来にしっかりつないでいくために。

まちづくりには、「ひと」が不可欠です。人がいきいきと輝き暮らせる「まち」をみんなと一緒に創っていく。人々が、ともに支えあい、いきがいと誇りを持ち、輝けるまちづくりのキーワードは「協働のまちづくり」です。そして、三芳「まち」がいつまでも活気にあふれ、元気であり続けるために、次代に良いバトンをつなぐために「持続可能なまちづくり」を進めていく必要があります。「みどり」豊かな武蔵野の平地林や三富新田に代表される田園風景が広がる自然と都市機能が調和したこのまちの「特性・資源を活かすまちづくり」を進め、これを未来につないでいく。こうした私たちの使命を「未来につなぐ」で表しました。このまちに住んでいることを誇りに思い、自分自身が積極的にまちづくりにかかわっていくことで三芳の誇りを創造していく。誇れるまち、三芳プライドを未来につないでいこう。そうした思いを込めています。

4 人口の推計・目標人口

第4次総合振興計画の人口の展望では、「首都近郊の町としての利便性の向上を図りつつ、豊かな自然と調和する質の高い生活環境を創造し、住みやすい町として定住性を高めていくとともに、土地区画整理事業等の開発による増加」を考慮し、町の人口は、緩やかに増加していくことを想定していました。目標年度である平成27年度(2015)の総人口を43,000人と設定し、将来の単独市制施行を視野に入れ、50,000人を目標人口に定めて、町政を推進することとしていました。41,000人を予想した平成22年(2010)の国勢調査人口は、38,706人となりました。

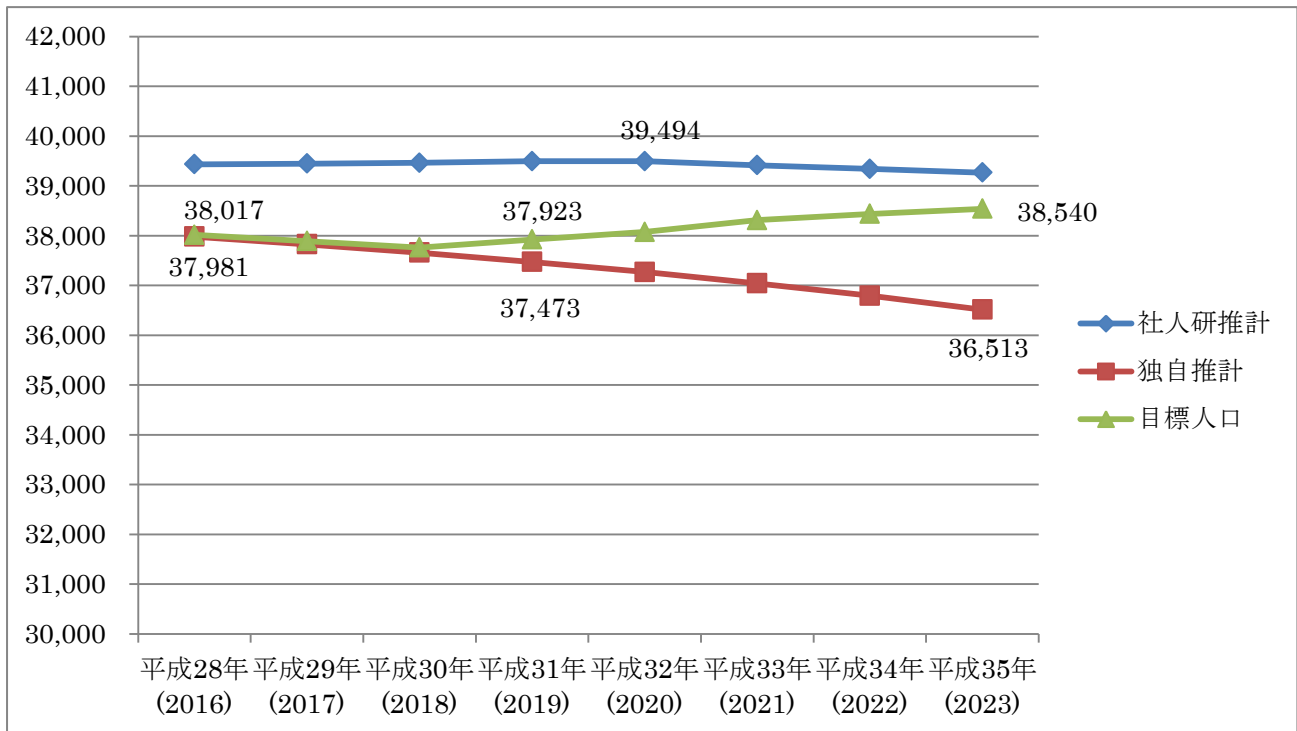
目標人口 38,500人

三芳町の人口は、国勢調査をベースにした国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、平成32年(2020)をピークに減少に転じます。総合計画目標年の平成35年(2023)に約39,000人となります。一方、本町独自の最新の住民基本台帳に基づく推計(コーホート要因法)では、目標年までに約36,500人となり、1,500人程度の人口減が見込まれます。

人口の推計にあたっては、国立社会保障・人口問題研究所のデータでは、既に現在の人口が1,000人余り超過していることから、妥当ではないと判断し、ここでは、本町独自の最新の住民基本台帳に基づく推計を採用するものとし、推計人口を36,500人とします。

目標人口は、若者が定着し、町に来てもらえるような魅力ある施策や子育て環境の整備、企業誘致による労働環境の整備などを実施するとともに、現在実施している3つの土地区画整理事業等による優良住宅地の造成等を考慮して、2,000人程度の人口増を見込むことで、38,500人とします。

住民基本台帳ベースの人口推計(コーホート要因法)と目標人口



		平成 28 年	平成 31 年	平成 35 年
総人口 (人)		38,017	37,923	38,540
年齢別 人口構成	65 歳以上	10,189 (26.8%)	10,633 (28.0%)	10,837 (28.1%)
	15~64 歳	22,701 (59.7%)	22,432 (59.2%)	22,947 (59.5%)
	0~14 歳	5,127 (13.5%)	4,858 (12.8%)	4,756 (12.4%)

5 土地利用の方針

1 土地利用基本方針

目標人口や基本目標等の実現に向けて、次の3つの基本方針により、地域の特性を配慮した魅力的な都市空間の整備を図ります。

(1) 交通構造を基礎とした2つの玄関口の整備

東武東上線鶴瀬駅及びみずほ台駅を「東の玄関口」として住民の労働、通学、生活交流等の出入口に、三芳スマートICを「西の玄関口」として、産業、観光交流等の出入口に設定します。それぞれの地域特性に配慮した環境整備を実施することで、町の経済の活性化や安全対策を図ります。

(2) 都市計画の見直し

区域区分（市街化区域及び市街化調整区域）や都市計画道路の見直しを行います。
地区計画の導入や建築物の建ぺい率・容積率等の見直しをすることにより、良好な都市環境の整備や企業の誘致・留置を促進します。

(3) ゾーニング

住居系、農業系、商業系、工業系、自然環境保全ゾーンなどの土地利用の特性に基づき、機能の分担を図り、良好な住環境、自然環境、活発な経済活動環境等を整備していきます。

2 土地利用区分

住居系

土地区画整理事業等の推進により、住みよい良質な居住環境を整備し、人口減少社会に対応するための定住化を促進します。また、都市計画道路等の道路整備を進めるとともに、潤いある街並みの形成に努めます。

農業系

地域の特性に合わせた農業生産形態を支援し、地域ブランド化を進めます。歴史的資産を継承するとともに、低未利用地や遊休地の観光利用などに活用し、集落環境の持続的発展をめざします。

商業系

都市計画道路や土地区画整理事業の推進とともに、住民の利便性を高めるため、消費生活を支える商業エリアの形成を促進し、経済活動の活性化を図ります。

工業系

企業の誘致・留置を積極的に図るエリアとして、工業用地の集積を進める開発誘導を図ります。また、地域の雇用を創出し、住環境との共生を考慮したエリアの形成に努めます。

自然環境保全ゾーン

自然的・歴史的価値の高い平地林の保全に努めるとともに、景観的な特徴を残しながら、住民が親しめる森林空間の形成に努め、活用の場を創出します。

みどり共生産業ゾーン

三芳スマートICを交通拠点とした産業誘致ゾーンとして、産業系施設の誘導を図ります。誘導にあたっては、特に沿道を中心に植樹等による緑化を推進し、景観を形成します。

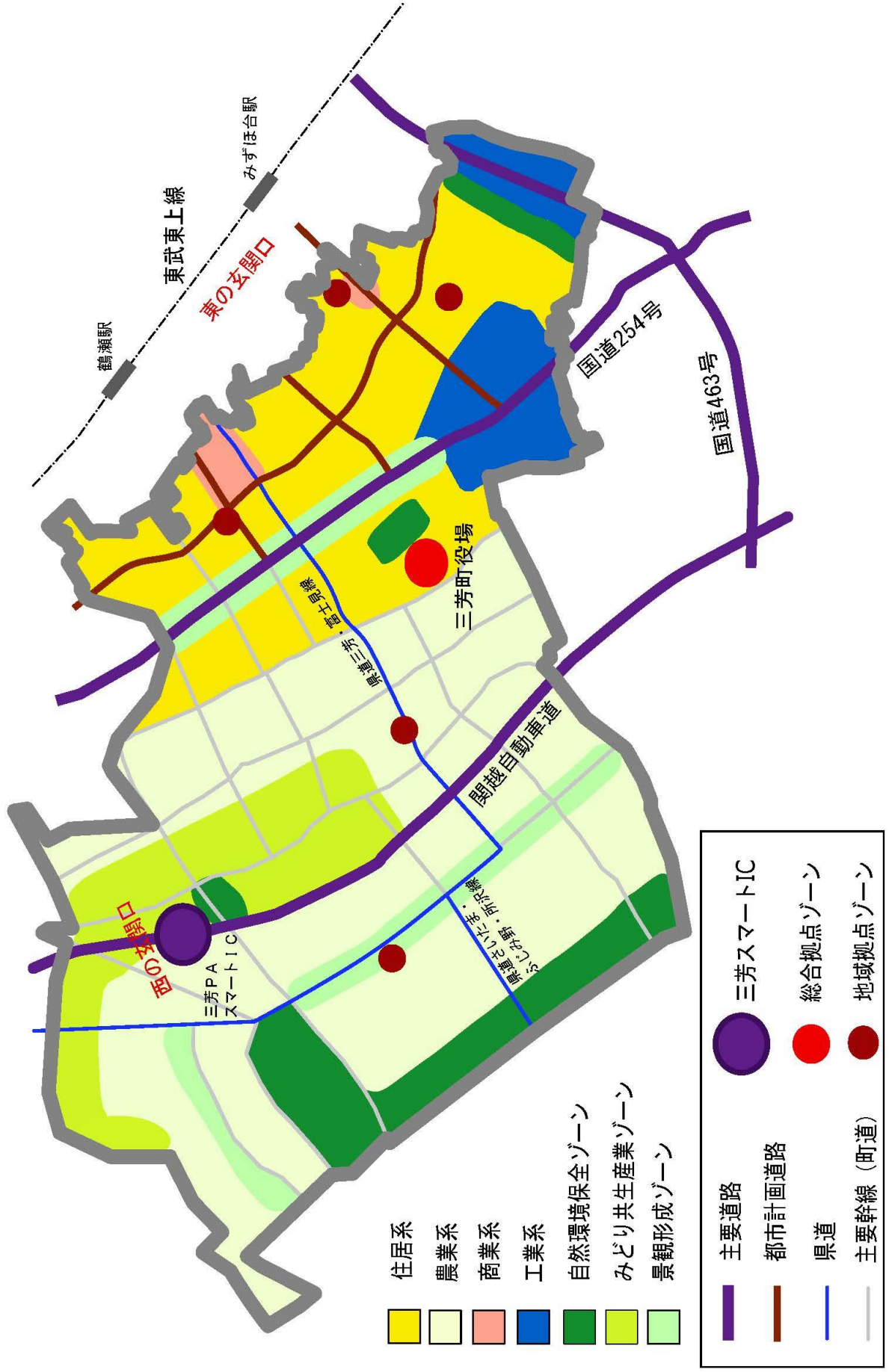
景観形成ゾーン

歴史や地域性を活かし、統一的で親しみやすい街並みの整備に努め、魅力ある地域イメージの形成を図ります。

拠点ゾーン

各地域に中心となる地域拠点ゾーンを定め、地域特性を活かした整備を進めるとともに、コミュニティ機能や防災機能等の拡充に努めます。また、総合拠点ゾーンでは、全町的利用施設が集中していることから、各地域拠点ゾーンとの連携を強化していきます。

3 土地利用構想図



6 基本目標(施策の大綱)

第4次総合振興計画からの継続性や住民が期待する将来イメージなどをふまえ、町の将来像を示す3つの基本目標を定めます。

I みんなで未来を拓くまち

住民を主体にさまざまな課題に対してみんなで考え、みんなで解決していく「協働のまちづくり」を推進し、困難な時代のなかでも未来を切り拓き、担える人材を育成していきます。将来像の「ひと」にあたる目標

1 多様な交流・協働のまちづくり

若い世代や事業者など多様な主体の多様なレベルでの参画を推進し、「協働のまちづくり」の深化、NPOの育成、コミュニティの活性化等を図ります。

2 未来を担う人材の育成

特色のある学校教育や社会教育を通じて、未来のまちづくりを担い、日本や世界で活躍する人材を育成します。互いを思いやり、認め合える人づくりを進めます。

3 生涯にわたる学びと活動の場

多様な社会教育やスポーツ等の推進を通じ、人々のいきがいつくりや個性と能力の発揮を図るとともに、町独自の芸術文化の創造と継承を図ります。

II 安全安心で幸せに暮らせるまち

東京に一番近い町として、安全安心で快適な生活環境や産業活動の基盤となる都市機能を充実させ、子どもからお年寄りまでみんなが幸せに暮らせるよう、効率的で質の高い行政サービスを提供します。将来像の「まち」にあたる目標

1 健康で安心して暮らせるまちづくり

子どもから高齢者まで住民が健康で安心して暮らせるまちづくりを推進しながら、少子高齢化や人口減を見据え、若年世代の定住を図ります。

2 安全安心で活気のある都市基盤の整備

安全安心で快適かつ便利な生活や活気ある産業活動の基盤となる都市機能の充実を図ります。特に公共交通の充実や歩道の整備、風雪水害対策の強化等の都市基盤整備を推進していきます。

3 効率的で質の高い行政サービスの提供

コンパクトな組織体制、行財政改革や公共施設マネジメントなどの推進をとおして、効率的で質の高い行政サービスの提供を図ります。

Ⅲ 緑と活力にあふれた魅力あるまち

平地林や三富新田などの自然と農業の保全活用や活気ある産業の振興により、町ならではの魅力づくり、地域ブランドづくりを図ります。

自然や緑を保全し、公園や街路樹の整備、緑化等を増進し、緑と魅力にあふれる景観や快適で持続可能な環境基盤を形成します。将来像の「みどり」にあたる目標

1 自然環境や景観を活用した観光と地域ブランドづくりの推進

平地林や三富新田をはじめとした自然環境や景観を活用し、「みよし野菜」などによる観光の促進や6次産業化によるブランド開発などさまざまなシティプロモーションを推進します。

2 活力と賑わいのあるまちづくり

地域の特性を活かした農業の進展や、三芳スマートICの活用と都市計画の見直しにより、企業の誘致・留置を促進し、商工業の経済活動の活性化を図り、雇用を促進します。

3 快適で持続可能な環境基盤の整備

自然の資源を活用した再生可能エネルギーの利用や循環型社会の形成、環境美化等を推進するとともに、上下水道施設の更新等により、快適で持続可能な環境基盤の整備を図ります。

7 重点プロジェクト

昨今の少子高齢化や経済低成長の時代にあっては、行政があらゆる公的サービスを発展的に拡大して提供することには限界があり、これまで以上に「選択と集中」に基づく政策により、財政基盤の強化を図るとともに最適な財政運営により自治体経営力を高めつつ、持続可能なまちづくりをめざしていく必要があります。そこで、次の重点プロジェクトに取り組んでいきます。



緊急重点プロジェクト

1 行財政基盤強化プロジェクト

事務事業の見直しと改善、アウトソーシング、定員管理、公共施設維持管理コストの縮減等により行政改革を計画的に推進します。企業の誘致や優良な住環境の整備により、人や企業に選ばれるまちづくりを進めることで、財政基盤の強化を図り持続可能な自治体経営をめざします。

重点プロジェクト

2 健康長寿プロジェクト

保健・医療・福祉の連携、健康づくりのモチベーション向上施策等の展開により、高齢者をはじめとして、住民がいつまでも元気に活躍できる健康長寿のまちをめざします。

3 子育て支援プロジェクト

若い世代が安心して結婚し、出産・子育ての希望をかなえ、未来を担う子どもたちが健やかに育つ環境の整備と教育の充実を図ります。地域ぐるみで子どもをはぐくむ力のある地域社会の実現をめざします。

4 緑の保全・活用プロジェクト

平地林や三富新田などの自然環境と地域の農業を保全し、良好な景観形成や農産物のブランド化を推進します。また、緑に恵まれた環境を活かし、自然にふれあう空間づくりを推進します。

5 西の玄関口プロジェクト

スマートICフル化整備に向けて「西の玄関口」による戦略的なまちづくりを展開します。みどり共生産業ゾーンにおける企業誘致・留置の推進、「(仮称)三芳バザール賑わい公園構想」などの道の駅の要素を取り込んだ新たなビジネス拠点の創出に向けた検討を進めていきます。